

Magic Mat II の導入(6)(HP 収載)

—ジャズ等の音源—

1. 始めに

今回は、Magic Mat II を LINN LP-12 に使用し、クラシック以外のジャズやラテン等の音源の盤を試聴してみます。

2. Magic Mat II の試聴方法

前報(2)の条件を適用します。

前報(5)までは、クラシックの音源を聴いてきましたので、今回はクラシック以外のジャズやラテン等の音源の盤を試聴します。また、併せてイコライザーカーブや位相特性についても調べてみます、

音源は下記の盤を使用します。

RIVER SIDE RLP 9407

Bags Meets Wes Delilah 他

Milt Jacson (Vibraphone)

Wes Montgomery (Guitar)

CBS Sony 29AP 46

Trio Los Panchos GRNPRI 20 ベッサメムーチョ他

トリオ・ロス・パンチョス

Atlantic P-5177~8A ワーナーパイオニア

The Last Concert 朝日のように爽やかに他

MJQ

RCA SRA-5-90~9 (日本ビクター)

カーネギーホールコンサート コットンフィールド他

ハリー・ベラフォンテ (ボーカル) 他

さらに、今回は追加として Magic Mat II とは関係ありませんが、デジタル音源も HFAD10-UBX と EMT981 から再生して聴いてみます。その際、Brooklyn DAC+と TruPhase の位相反転機能を利用して位相特性についても調べてみます、

ユニヴァーサルミュージック UCCU 40126/7 (MQA-CD)

ジャズサンプル盤 枯れ葉他

マイルス・ディビス (Trumpet) 他

FIC EX-2020

モダンジャズカルテット 朝日のように爽やかに

MJQ

東芝 EMI TOCJ-5921

Play Bach Today 平均律クラフイーア第1巻第1番プレリユード

ジャック・ルーシェトリオ

Eastern Enterprise GL-105

Country and Western 思い出のグリーングラス他

ポーター・ワゴナー (ボーカル)

3. Magic Mat II の試聴結果

RIVER SIDE 版の Bags Meets Wes は、ZANDEN のリストを参考に、Columbia、R、第4時定数 Low で聴いていきましたが、違和感はありません。試みに R→N としますと、音の焦点が定まらず、ヴィブラフォンは音が過度に揺れ動きます。

Achromat の上に Magic Mat II を敷きますと、個々の楽器の滲みが消えて音像がきりっと立ち、定位もより明確になり、クリーンなジャズとなります。

CBS Sony 盤のトリオ・ロス・パンチョスは、Columbia、R、第4時定数 Low と Columbia、R、第4時定数 High を聴き比べましたが、後者の方がギターの切れが良いので後者を選びました。Achromat の上に Magic Mat II を敷きますと、個々の楽器とボーカルの焦点があって見通しがよくなり、ラテンのパッションを感じます。

Atlantic 盤の The Last Concert は、ZANDEN のリストによれば米国プレスは、Columbia、R、第4時定数 Mid、ワーナーパイオニアの国内プレスは、EMI、R、第4時定数 Low となっていますので聴き比べますと、EMI、R、第4時定数 Low の方が、個々の楽器の響きが豊かになります。Achromat の上に Magic Mat II を敷きますと、音の滲みが消えて、演奏の実在感がはっきりとしてきて、MJQ の清潔感のあるジャズとなります。

RCA 盤 (日本ビクター) のカーネギーホールコンサートは、ZANDEN のリストの Columbia、R、第4時定数 Low で聴いていきましたが、違和感はありません。

Achromat の上に Magic Mat II を敷きますと、盤質はよくないものの、ベラフォンテの張りのある歌唱が明晰になり、バックのベースとともにスイング感がでてきます。

Magic Mat II とは関係ありませんが、上記アナログ盤に逆相が多いことから、デジタル音源の位相を調べてみます。

MQA-CD のサンプルの枯れ葉は、HFAD10-UBX から再生するのは初めてですが、トランペットとその他の楽器の質感がよくできています。Brooklyn DAC+の位相反転機能で、Normal→Reverse にしますと、より個々の楽器の音の滲みが消えて、質感が明瞭になります。

FIC の CD のモダンジャズカルテットは、EMT981 で再生しますが、アナログと同様、クリーンなジャズです。TruPhase の位相反転機能で Reverse にしますと、音の焦点があってヴィブラフォンのアタック感が出てきてリズムセクションもよく弾みます。

東芝 EMI の CD の Play Bach Today、EMT981 で再生しますが、1994 年の発売で、いかにも近年の録音のようでワイドレンジです。TruPhase の位相反転機能で Reverse にしますと、音の焦点がぼやけて、ピアノのアタック感やベースの弾みぐあい後退します。

Eastern Enterprise の CD の Country and Western は、EMT981 で再生しますが、ポーター・ワゴナーのボーカルが伸び伸びと歌っています。TruPhase の位相反転機能で、Reverse にしますと、より歌唱の焦点があって、リズムセクションも含めて定位も明確になってきます。

4. まとめ

Achromat の上に Magic Mat II を敷きますと、音の滲みが消えて、ジャズやラテンでも、リズム感など、演奏の実在感がはっきりとしてきてクラシック以外の音楽ジャンルの曲でも効果があることが分かりました。また、収録年代が遡ったものは、逆相のものが多いことも分かりました。また、アナログ盤だけでなく、アナログマスター収録の CD でも、逆相のものがあることが分かりました。

以上